

第 2 回こどもはぐみ推進本部会議議録（要旨）

開催日時	令和 5 年 4 月 10 日（月） 15:00～16:55
場 所	真庭市役所 本庁舎 3 階応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、 危機管理監（今石）、総合政策部長（木村）、総務部長（金谷）、 生活環境部長（池田）、健康福祉部長（樋口）、産業観光部長（石井）、 建設部長（頭山）、会計管理者（今石）、教育次長（武村）、 消防長（代理：川上）、湯原温泉病院事務部長（代理：土肥）、 議会事務局（児玉）、蒜山振興局（行安）、北房振興局長（大塚）、 落合振興局長（河本）、勝山振興局長（三浦）、美甘振興局長（安藤）、 湯原振興局長（河島）、
事務局等	子育て支援課（行田、広岡、栢野）
傍 聴 者	3 名
議 事 内 容	(1)こども・子育て施策（こどもはぐみ応援プロジェクト）の進め方の確認（資料）
冒頭の事項	健康福祉部長：新年度体制も変わり、改めてもう一度考え方を周知しながら進めていきたい。
	本部長：予算執行の段階に入り、こどもはぐみプロジェクトの関係の政策の推進、5 つの項目で整理して進めていく。これに基づいて十分な議論を組織で進めていき必要があれば補正予算で対応。当初ですべきものについては充分検討し、来年度当初予算に上げていくということをしていただきたい。真庭の中で子どもを産み育てようということを重点にしながら、市外からも真庭に教育移住しようかというような真庭をつくっていけたらと思うので、皆さん議論をして、そしてまた、市民とも議論をして検討していくことをお願いしたい。
（１）こども・子育て施策（こどもはぐみ応援プロジェクト）の進め方	健康福祉部長：子ども子育て施策の推進ということで令和 5 年度に向けてのこどもはぐみ応援プロジェクトを取りまとめ、予算につきましても倍増という事で政策予算として 9 億 5000 万程度計上して今年度スタートをきっている。 推進体制の進め方で、 <u>地域全体で支える仕組みづくり</u> という点では、市長による子ども子育てキャラバン等の活動や、市民とともに子ども子育てを考えるイベント、子育てを考える日というようなもの設定など、市民の方も含めて子ども子育てについての議論をしていこうと考えている。皆さんのご意見の情報収集として、真庭市の HP にプロジェクトに対する意見フォームを作成。子ども子育てに関する調査分析の結果の公表と、今年度見える化すべき内容について関係課と連携して調査研究をしていく。地域の企業や社会福祉協議会との連携も重要となってくる。 <u>タイムリーな情報発信</u> という点では、既にある真庭こども ICT ネットワークの体系化など、わかりやすい情報発信に努めていきたい。MIT もタイアップし、地域全体で子育てを支援する機運を醸成できるように

番組制作ということも考えている。こどもはぐみ応援プロジェクトの推進という点では、こどもはぐみ応援プロジェクトは部局横断で取り組むもので、単独で子育て支援課が進めるものではないと考えている。プロジェクトを部局横断で推進していくために調整と進捗管理をしていく。また、産業政策課と連携を取りながら、こどもを安心して産み育てることができる社会の実現のための必要なニーズ実態調査や、産業プラットフォームを活用したアンケートを行い、情報収集から政策に役立てていきたい。人口動態等含めた研究資料を共有し、どう政策を打っていくか庁内全体で考える体制、さらには先進地視察等、それについての全庁で情報共有ということを進めていきたい。

市役所全体の体制強化という点では、本日ののはぐみ推進本部会議は、重要事項の決定や関係部局の調整、施策の検討実施に必要な調査研究を進める。下部である政策推進マトリックス会議は、施策の企画立案の総合調整、事業の総合の連絡調整ということを進める。そこには、子育て世代の若い職員の意見を聴取したり、総務課の若手職員の研修制度に、子ども子育て支援というテーマを設けて取り組んでもらい、施策を立案する中で若い職員の意見を吸い上げて各部局が主体的に考えてこの会議で議論してまとめていきたい。

保育士の確保という点では、大学等へのリクルート活動や、包括連携協定など大学との連携をとる。人材の確保のための給付制度ということも考えていく。部局横断で、子ども子育てを主体的に取り組むことを、意識共有できればと思っている。

産業観光部長：調査系のことですが、子育て世代の所得階層別の解像度を上げた調査が必要と思われるので、司令塔にスケジュールや内容などの指示を出してもらい、密に連携を取りながら調整させてもらいたい。情報発信については、口コミが広がるプラットフォームみたいなものが多分必要で、それが何かそこを分析をして SNS を絡めて情報を出していくのがいいのでは。子育て世代の職員が一番知ってると思うので、ぜひ情報をとってもらいたい。

副本部長（伊藤副市長）：市役所の中の若い人の意見をどんどんこの場に吸い上げることを頑張ってやっていく。市民の皆さん方にどう情報発信できるか、これが非常に重要である。効果的な情報発信の方法は、若い職員の方にアイデアを借りて。

この会議の進め方も部長ではなく、工夫をしてもらいたい。

本部長（太田市長）：子育てしやすい環境づくりへの意見を、当事者から出してもらうということは必要だと思う。

副本部長（三ツ教育長）：子どもの権利を保障する。そのために、何ができるかを大事にしたい。子どもの権利と言った時に遊ぶ権利もあるし、休む権利もある。そこをまず担保したいということで、遊び場づくりの運動をやりたい。これは教育委員会が準備して何かしようというものではな

く、市民運動を側面からできるだけ支援して行きたい。大人同士のネットワークが形成され、ここで対話が生まれたり、クチコミで子どもが自由に遊ぶことのすばらしさが広がっていくことを願っている。家庭教育支援チームは親育ち応援プログラムっていうことを中心に取り組んでいる。

生活環境部長：高校生世代の医療費無償化は、先週４月７日に、高校生世代に申請書を送っている。プレスリリースも MIT 等にしっかりやっていく。

副本部長（伊藤副市長）：今日は、今年度の柱立というか少し大まかな項目を提示して、これを市役所それぞれの関係する部署で肉付けをしていく。次の会議でより具体的な形にしていく。それぞれの部署で子ども目線で施策の実行というのをぜひ考えて頂ければ。例えば、イベント開催の際には、託児を設けるとか、予備のオムツを準備するとか。ぜひ担当している仕事の中で、子ども本位、子ども目線っていう視点で、いろんなことを考えていただければ。

美甘振興局：桜ウィークにあわせて行ったサクラウォーキングは、子育てを地域全体で支えていくためには、子育て政策への市民の理解を深めていくことが大切で、まさにそういう取り組みであると実感できた。

副本部長（伊藤）：情報発信は重点的にやらなくてはいけない。もう一つは、市内の中で子育てについての機運をどう盛り上げていくかが非常に大事。具体的な一つの案として、市長によるキャラバン的なものとか、子育てをテーマにしたイベント開催とか、次回までにぜひそのあたりについて、皆さんもそれぞれの部局の中で若い方中心にしてアイデア出しをして、面白い企画を提案してください。

本部長（太田市長）：時期を見て横断幕や標語を募集するとか。いろいろなことで意識付けになる。

産業観光部長：市民の人に声かけて集まって議論してはどうか。去年は岡山大学の先生にコーディネーターをしてもらったり、学生に入ってもらってそのようなことに取り組んだ。リアルな声を聞いた方がいい。いくら調査分析しても数字だけの話なので、本当にリアルな声を聞くとそれがすごく生き生きとしてくる。去年は岡大の大塚先生にお願いし、子育て世代で子連れでワークショップをやった。

本部長（太田市長）：真庭以外の先進事例の情報を共有し、公立だけでなく多様性を意識してもらえれば。

副本部長（伊藤副市長）：子育てについても、やっぱりどれだけ多くの選択肢があるか、民間の活力能力をしっかり活用していくことも考えていく。国の動向はしっかり注視しながら、柔軟に対応していくということも気をつけてほしい。

確 認 事 項

- こども子育て施策の推進は 5 つの項目で進めていく。
- 子育てしやすい環境づくりへの意見を、子育て世代の当事者から出してもらうということが必要。
- 市民の皆さん方に情報発信をどう方法でやっていくかが非常に重要である。効果的な情報発信の方法について、若い職員の方のアイデアを借りて検討。
- 市内の中で子育てについての機運をどう盛り上げていくかというのが非常に大事である。次回までにそれぞれの部局の中で、若い世代にもアイデア出しをしてもらい、企画を提案してもらう。